

令和7年度

事業報告書

社会福祉法人 流山市社会福祉協議会

令和7年度社会福祉法人流山市社会福祉協議会事業報告

第3次地域福祉活動計画並びに第2次社協発展・強化計画は5か年のうち4年が経過し、両計画に沿って各種事業を展開しました。

感染症対策においては、ケアセンターを利用する高齢者等の感染リスクの低減を図るため、これまで培った経験を活かしながら、引き続きこまめな手洗いの励行や自主的な換気やマスク着用、カウンターへのアクリル板設置、自動手指消毒器や自動検温器の設置等感染防止対策を講じながらの事業・業務を実施しました。

地域福祉を推進する中核的な機能を持つ流山市社会福祉協議会（市社協）では、流山市や関係機関と連携しながら、地区社会福祉協議会の各種イベントや南部地域包括支援センターが展開する「自分の居場所づくり」等において、多くの住民の皆様の協力をいただきながら地域福祉活動を展開してきました。

コロナ特例の緊急小口資金と総合支援資金については、引き続き返済が滞る傾向にある世帯の生活状況の把握のため、電話・文書・メールなどのほか、9月には訪問による現地調査を88名の借受人に対し行い、適宜当該世帯のコロナ禍後の生活改善に向けたフォローアップ支援に努めました。他にも再就職後の初回給与までの緊急小口資金や、低所得世帯の子どもたちの学びを支援するための教育支援資金の申請、借受した方への状況確認やフォローアップ、喫緊にライフラインの回復や生活費を要する世帯への愛の資金貸付など多くの生活資金に関する相談及び支援を行い、生活に困窮された方々を支援しました。

流山市成年後見推進センター（成年後見中核機関）では、権利擁護支援の体制整備のための、新たな協議体（会議）を企画・運営し、権利擁護支援の地域連携ネットワークの進展に努めました。このほか、行政や地域包括支援センター、障害者相談支援事業委託事業所等と連携した相談対応や成年後見制度の申立て支援に努めた一方、さらに専門職による相談会、市民を対象とした講演会や専門職を対象とした研修会、様々な要望に応じた出前講座を開催し、成年後見制度の普及啓発に努めました。

日常生活自立支援事業では、成年後見推進センターと協働し、幅広い広報活動を展開したことで、前年度に比べ、さらに相談件数や利用者数が増加しました。また、利用者の支援を担当する生活支援員について昨年度に引き続き広報ながれやま等で公募するとともに、生活支援員候補者説明会を行うなど、支援体制の強化を図りました。

流山市では令和6年度から社会福祉法に基づく生きづらさ包括支援事業（重層的支援体制整備事業）をスタートし、同年10月から市社協では同事業について、継続的支援事業及び参加支援事業を受託、業務を開始し、これら事業の効果的な展開により地域福祉の一層の推進が図られるよう積極的に取り組んでまいりました。

学童クラブでは、指定管理者として、子どもたち一人ひとりを尊重した育成支援を行い、子どもたちにとって楽しい思い出となる活動の充実を図り、子どもたちや保護者が安心し

て学童クラブを利用いただけるよう健全な運営に努めました。

災害時への備えでは、災害ボランティアセンターの設置場所や事務委託に係り、市と「災害ボランティアセンターの設置・運営の取り扱いに関する覚書」を締結しました。

また、災害時寄り添いサポーター養成講座や災害ボランティアセンター運営スタッフ養成講座等を開催し、災害時の支援ボランティアの養成に努めるとともに、自治会等の要請により避難所運営ゲーム（HUG）の講師派遣や関係団体が開催する防災イベントを通じ、本会の災害支援への取り組みについて周知・啓発を図りました。

在宅（介護）サービス部門においては、従来に引き続き感染リスクを背負いながら社会生活を維持するため欠かすことができない「福祉の仕事」を、“エッセンシャルワーカー”として利用者や家族の支援に努めました。

高齢者デイサービスセンターでは、利用者の社会的自立を支援する評価指標（SIOS）を運用し、利用者の状態に応じたケアサービスの充実に努めました。

1 社会福祉事業

(1) 法人運営

① 組織の運営

感染症対策の観点から、昨年引き続き窓口カウンターへのアクリル板の設置や1階ケアセンター入口に自動検温器、3階エレベーターの前に自動検温器・自動手指消毒器を設置するなど対策を講じた。

○ 理事会

期日	主な内容
令和7年 5月20日	<令和7年第2回> 令和6年度事業報告並びに決算、評議員・評議員選任・解任委員、理事・監事候補者の推薦 他
6月12日	<令和7年第3回> 理事長（会長）の選任、副会長の選任、総合企画・広報等各委員会委員の選任
8月21日	<令和7年第4回> 諸規程の一部改正
12月8日	<令和7年第5回> 評議員候補者の推薦、令和7年度補正予算 他
令和8年 3月12日	<令和8年第1回> 令和7年度補正予算、令和8年度事業計画並びに予算、評議員候補者の推薦、諸規程の一部改正、流山こまぎ園の現地査察報告 他

○ 評議員会

期日	主な内容
令和7年 6月12日	<令和7年第2回> 令和6年度事業報告及び決算の承認、理事の選任
12月18日	<令和7年第3回> 令和7年度補正予算
令和8年 3月24日	<令和8年第1回> 令和7年度補正予算、令和8年度事業計画並びに予算、流山こまぎ園の現地査察報告

○委員会等

①児童対策委員会	令和7年10月6日 (地域ぐるみ福祉のまちづくり推進標語・ポスターの審査)
②障害者対策委員会	令和8年2月16日 (流山こまぎ園の現地査察)
③歳末たすけあい配分委員会	令和7年11月27日
④心配ごと相談所運営会議	令和7年5月23日、10月25日
⑤広報委員会	令和7年6月13日、8月28日、12月22日、 令和8年2月24日

○監査

期 日	主な内容
令和7年 5月13日	令和6年度監査
10月30日	令和7年度中間監査

②組織体制基盤の強化

○研修

住民のニーズに的確に応え、優れた福祉サービスを提供していくために、職員一人ひとりが役割に応じた能力を備えられるようにするとともに、社会福祉協議会のより一層の組織力の強化を図ることを目的に実施している。

令和7年度は、メンタルヘルス対策の重要性を再確認する産業医の講習のほか、防犯・救命分野においては、警察署や消防署の協力を得て実践形式で講習会を開催し、具体的な使用方法を学び、また、当会職員としての共通認識の定着や職員の資質向上・意識の醸成を目的に外部講師による研修を実施した。

期 日	主な内容
令和7年12月1日	防犯講座 「不審者対応とさす又の使い方」 【講師】流山警察署 生活安全課 小澤 彩人 氏
令和8年1月6、7、 14、19日	AED講習 「応急救護訓練（AEDの使い方等）」 【講師】流山南消防署 消防隊員

令和8年3月9、16日	<p>コンプライアンス研修 「コンプライアンス（法令遵守）と個人情報の保護」 【講師】 株式会社インソース 高橋 秀明 氏</p>
令和8年3月26日	<p>健康管理講習会 「復職支援について」 【講師】 産業医（石渡クリニック院長）石渡 隆 氏 ※希望者にはZOOMによるオンライン参加とした。</p>

③ 会員募集

社協会費は、さまざまな福祉関係団体への助成、福祉教育やボランティア活動の推進、地区社会福祉協議会、高齢者の福祉対策費等に充てられ、「誰もが自分らしく安心して暮らせるまちづくり」を目指した本会の事業を進める上での大切な財源となっている。

また、社協会員になることによって、一人ひとりが「地域福祉」を自らの活動として受け止め、地域福祉活動に間接的に参加していただくという意味合いも持っている。

社協会費について、普通会员は全世帯の皆様にお願ひし、本会が行う社会福祉事業推進活動にご理解ご賛同いただける個人や法人の皆様には、賛助会員、法人会員としてご協力をお願いした。

④ O A 化の推進

第2次流山市社会福祉協議会発展強化計画に沿い、勤務状況の把握や給与ソフトへの連携など、労務管理のさらなる効率化を踏まえ、勤怠管理システムを活用することにより、労働時間の可視化や業務効率化によるコスト削減に努めた。

(2) 広報啓発

① 広報紙「ながれやま福祉だより」の発行

年4回（6・9・1・3月）

（新聞折り込みによる全世帯配布。また、市内スーパー等店舗に広報ラックを設置し、新たな読者層の獲得を試みた。）

② ホームページの運営

③ パンフレットの発行

（世帯回覧のほか、公共施設の窓口等で配布。）

④ SNSによる情報発信（X（旧ツイッター）及びフェイスブック）

(3) 福祉活動

○福祉団体の支援及び連携、協働

地域福祉の充実と向上を図ることを目的とした福祉関係団体（柏地区保護司会流山支部、東葛飾地区更生保護女性会、流山市原爆被爆者の会、流山市身体障害者福祉会、流山市視覚障害者協会、精神障害者家族会よつば会）等の活動に対し、その運営及び事業活動への助成を行うことにより、地域福祉の推進を図った。

流山市民生委員児童委員協議会や流山市老人クラブ連合会、流山市シルバーサービス事業者連絡会の事務局として、各種事業の企画・運営や関係機関との連絡調整等に努めた。

(4) 地域福祉推進

①地域との連携

多くの小中学生からの応募をいただき、優秀作品のポスターを市内に掲示して「福祉のまちづくり」のPRを行った。

応募数：<標語>	小学生	41点	中学生	24点
<ポスター>	小学生	21点	中学生	13点
参加校：	小学校	15校、	中学校	8校
審査：	児童対策委員会	令和7年10月6日（月）	10時～11時30分	
於：	ケアセンター第1・2研修室			

市内17の地区社会福祉協議会においては、高齢者等の見守り活動や、敬老事業としての訪問（記念品・お祝い品などのお届け）を行ったり、敬老のつどい、ふれあいいいきいきサロン、三世代ふれあい福祉まつり、ふれあいコンサート、みんなの食堂など、各地区において創意工夫による世代を超えた「地域のつながり」の維持に努めた。

また、4月には地区社会福祉協議会の代表者会議を昨年に引き続き開催、新川北部地区社会福祉協議会の「みんなの食堂」のほか、小・中・高・大学生など子どもたちが自ら担い手の中心となり、展開している取り組みの事例発表を共有し、「子どもを中心とした事業」についてグループディスカッションを行った。

期 日	主な内容
令和7年4月27日 流山市ケアセンター 第1・2研修室	令和7年度第1回地区社会福祉協議会代表者会議 会議事項 (1) 令和6年度の地区社会福祉協議会事業に関する情報交換(グループディスカッション) (2) 令和7年度地区社会福祉協議会の補助金申請等について

さらに、1月には、千葉県社会福祉協議会主催の「コミュニティソーシャルワーカー育成研修（基礎研修）『地域福祉支え合い・助け合い推進講座』」を南流山センターにおいて開催した。

24名の地区社会福祉協議会役員が参加し、生活者として地域を支えていくための支え合い・つながりづくりについて学び合う機会を設けた。

期日・会場	主な内容
令和8年1月9日 南流山センター 第4会議室	令和7年度千葉県コミュニティソーシャルワーカー育成研修（基礎研修）「地域福祉支え合い・助け合い推進講座」 主催：社会福祉法人千葉県社会福祉協議会 共催：社会福祉法人流山市社会福祉協議会 講師：作新学院大学女子短期大学部幼児教育学科教授 坪井 真氏 講義「生活者として地域を支える～福祉の担い手を目指す～」 演習「私たちが取り組む地域の支え合い・助け合い ～参加者同士で新しい活動を創り出そう～」 参加者：流山市内の地区社会福祉協議会で活動する役員等 24名 スタッフ：千葉県社会福祉協議会地域福祉推進部職員、当会職員

②寄付物品の受入・払出（フードバンク含む）

住民の皆様から善意で提供のあった物品の受け入れ及び払い出しを行った。特に食料品（米・レトルト食品・缶詰類など）や日用品については、一時的に生活に困窮している方に対して支援を行うほか、福祉事務所、生活困窮者自立相談支援機関、流山子ども食堂ネットワーク、とうかつ草の根フードバンクなどと連携しての支援に取り組んだ。

また、「フードバンクちば」との連携協定に基づき「フードバンクちば」が定期的実施するフードドライブ（食料品の受入事業）の受け入れ窓口として期間内に住民の皆様から提供のあった食料品を市内の一時的な生活困窮者のために役立てた。

○ 善意の受入・払出実績

品名	受入件数	払出件数
食料品	33件	123件
日用品	20件	7件
介護用品	27件	27件
その他	0件	4件
合計	80件	161件

○ フードドライブ実績

回数	期間	受入件数
第39回	令和7年 5月19日～ 6月30日	3件
第40回	令和7年 9月16日～10月31日	4件
第41回	令和8年 1月19日～ 2月27日	9件

③ 子ども食堂への支援

流山市内26か所の子ども食堂に、流山子ども食堂ネットワークを通じて、食料品の支援、民間助成制度の活用に対する情報提供や申請の支援を積極的に行った。加えて、住民の皆様からお寄せいただいた寄付金や歳末たすけあい募金を原資に助成を行った。

④ 子育てサロンの開催

生涯学習センター・民生委員児童委員協議会・社会福祉協議会の三者共催で運営委員会を設置し、乳幼児をもつ親子に交流を深めていただくとともに、日々の子育ての中で抱く様々な悩みや不安の解消を図ることを目的として、子育て世代の皆様からのニーズに応え、生涯学習センターを会場に子育てサロン「サンサン」を隔月開催した。

期日	内容	参加者数
令和7年 5月28日	ペープサート、大型絵本、からだを動かす遊び、体操 他	6組12人
7月23日	講話「離乳食について」、手遊び 他	7組14人
9月24日	製作、手遊び、絵本、体操 他	7組14人

11月27日	製作、手遊び、パネルシアター、ペープサート 他	8組16人
令和8年 3月25日	製作、手遊び、ふれあい遊び 他	4組 9人

※運営委員会の開催

令和7年5月21日、7月16日、9月17日、11月19日、令和8年3月19日

⑤福祉教育活動の支援

前述の「地域ぐるみ福祉のまちづくり推進標語・ポスターコンクール」のほか、千葉県（教育委員会）・千葉県社協が推進する「福祉教育推進パッケージ指定」事業において、令和5～7年度の3年間、流山市八木北地区社会福祉協議会が指定を受け、3校と1地区社協を一つの「地域」として、福祉教育推進を図ることとなった。令和6年度は指定2年目として、各校・地区社協との本事業の推進のため「八木北地区福祉教育推進連絡会議」を年4回開催し、「誰もが幸せに暮らせる地域づくり」をスローガンに協議を重ねた。

各校の福祉教育や地区社協の取り組みと、協働事業についての議論を重ねる中で、実現した取り組みと実現が困難であった取り組みなどを精査し、「千葉県福祉教育研究大会」で実践発表を行った。指定期間後も相互のつながりの継続と、さらなる協働につなげていくことを確認し、指定事業による推進会議の幕を下ろした。

なお、この取り組みについては、令和8年度に千葉県社会福祉協議会より刊行予定の福祉教育推進校・推進団体活動報告書「3か年の歩み」として掲載予定である。

○八木北地区福祉教育推進連絡会議

期日	内容	会場
令和7年5月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・各校・地区社協の福祉教育関係事業の進捗状況について ・各校・地区社協の協働事業について ・研究大会・発表資料について 	八木北小学校
8月4日	研究大会へ向けた発表内容のリハーサル (オンラインツールを活用し開催)	流山市ケアセンター第4研修室

8月19日	千葉県福祉教育研究大会 ・常盤松中学校区(八木北地区)の取り組みについて(発表) 当会職員(事務局)より地域全体の概要や福祉教育推進連絡会議についての経過報告を行い、八木北小・常盤松中・流山高校・八木北地区社会福祉協議会のそれぞれの取り組みや協働実践について発表を行った。	千葉県 社会福祉センター
令和8年3月25日	・各校・地区社協の福祉教育関係事業の進捗状況について ・3年間のまとめ	流山こまぎ園 会議室

このほか、福祉教育活動の支援としては、当会職員が全国福祉教育推進員研修のファシリテーターを務め、千葉県内の市町村社協職員の研修受講をサポートした。(令和7年8月6日)

(5) ボランティアセンター

① 災害時の対応

災害ボランティア養成講座や各種団体等の研修会、防災講演会などを通じ、災害ボランティアセンターの運営支援者の養成・災害ボランティアセンターの紹介を行い、災害時の連携・協力体制の強化を図った。

○ 研修会等への講師派遣

期 日	場 所	内 容	参加者・ 来場者数
令和7年 5月18日	おおたかの森 センター ホール	流山市おおたかの森センター主催 「第7回親子の絆(防犯・防災)」 ・車いす・アイマスク・白杖体験 【講師】 流山市ボランティアセンター	17人
令和7年 8月30日	流山おおたかの 森駅前 もりのまち広場	流山青年会議所主催 「地域で守る!みんなで学ぶ! 防災万博 in Nagareyama」 ・流山市社会福祉協議会の災害時の 取り組み ・流山市災害ボランティアセンターの	10,000人

		紹介ほか 【ブース出展】 流山市ボランティアセンター	
令和7年 10月29日	千葉県生涯大学校 東葛飾学園 大教室	千葉県生涯大学校東葛飾学園研修会 (地域ささえあいコース) 「避難所運営ゲーム(HUG)」 【講師】 NPO防災対策サポート 流山市ボランティアセンター	60人
令和7年 11月30日	流山市立 長崎小学校 体育館	令和7年度第4回長崎小学校 避難所開設・運営訓練 「災害ボランティアセンター 出張開設」 【出展】 流山市ボランティアセンター	50人
令和8年 2月14日	江戸川台東 自治会館 ホール	江戸川台東自治会防災部主催 「2026年冬季防災訓練」 ・避難所運営ゲームHUG 【講師】流山市ボランティアセンター	25人
令和8年 2月22日	流山市生涯学習 センター 多目的ホール他	流山市シルバー人材センター主催 「シルバーフェスタ in 流山2026」 ・流山市社会福祉協議会の災害時の 取り組み ・流山市災害ボランティアセンターの 紹介ほか 【ブース出展】 流山市ボランティアセンター	200人

○災害ボランティア養成講座の開催

講座名等	期 日	内 容	参加者数
災害時寄り添い サポーター 養成講座	令和7年 11月22日	<p><説明></p> <p>○ワークショップ 「要配慮者が暮らせる避難所づくり」</p> <p>○講義 「みんなで考えるやさしい避難所」</p> <p>【講師】 船橋SLネットワーク 代表 平田 千重 氏</p>	18人
災害ボランティア センター 運営スタッフ 養成講座	令和7年 11月29日	<p>○講義 「災害ボランティアセンターのしくみと 役割について」 ～地域に根ざした災害ボランティアセンターを 目指して～</p> <p>○ワークショップ 「災害時の決断」 ～クロスロードゲームを使った 災害対応疑似体験～</p> <p>【講師】 公益社団法人 SL災害ボランティア ネットワーク 常務理事 天寺 純香 氏</p>	13人

○共催事業

防災講演会 令和8年1月23日 流山市文化会館

災害ボランティアセンターの役割や共同募金における被災地支援の取り組み、避難所運営ゲーム等の展示、防災関連資料の配布、赤い羽根共同募金の募金箱を設置した。

②ボランティアの活動支援

各種ボランティアの講座・体験会の開催や市民への情報提供及び要請に伴うボランティア活動の調整や機材の貸し出し等を行い、ボランティアの育成と活動支援に努めるとともに、ボランティア・グループ、関係機関・団体との連絡調整を密にし、ボランティア活動の普及と推進に努めた。

ア ボランティア講座等の開催

講座名等	期 日	内 容	参加者数
夏休みボランティア体験プログラム ①収集ボランティア	令和7年 7月30日	「使用済み切手・ベルマークの整理、活用方法」 【協力】 収集ボランティア	19名
夏休みボランティア体験プログラム ②音訳体験会	令和7年 8月8日	「聞き取りやすい読み方・わかりやすい説明の仕方・正しい発声やアクセント ほか」 【協力】 流山音訳グループ	14名
夏休みボランティア体験プログラム ③顔彩・ゼンタングル体験会	①令和7年 8月19日 ②令和7年 8月21日	「高齢者施設の利用者さんに絵手紙を送ろう」 ①顔彩 ②ゼンタングル (※ゼンタングルは簡単な模様を繰り返し描くパターンアート) 【協力】 介護支援サポーター	①16名 ②16名
ボランティア入門講座	令和7年 10月28日	・ボランティアとは？ ・ボランティアの始め方と続けるコツ ・活動前の注意点や心がまえ ・ボランティアセンターについて ・ボランティア活動の種類と活動紹介 ほか 【講師】 流山市ボランティアセンター職員	8名
相手を尊重するコミュニケーション講座 【基礎編】	令和8年 1月10日	○講義 「ボランティア活動のスタッフとして学んでおきたいコミュニケーションの基礎知識」 ○ロールプレイ（演習） ・遅刻してきた大学1年生 ・施設の部屋にひきこもっているおばあさん 【講師】 聖徳大学 教育学部児童学科 教授 東原 文子 氏（公認心理師）	25名

相手を尊重する コミュニケーション講座 【実践編】	令和8年 1月21日	○講義・ワーク ・ミニ講義①「ボランティアに求められる コミュニケーション」 ・ミニ講義②「関係をこじらせにくい言葉・姿勢」 ・ワーク①「聴くコミュニケーション」 ・ワーク②「伝わっているつもり のコミュニケーション」 ・ワーク③「その一言、どう言い換える？」 ～ボランティア現場の コミュニケーション練習～ 【講師】 聖徳大学 教育学部児童学科 准教授 有川 かおり 氏	14名
---------------------------------	---------------	--	-----

イ 登録ボランティアの活動状況

年間総活動人数（延べ） 19,326人
 ボランティアセンターの要請に基づく活動人数 1,715人
 ※施設ボランティア含む。

区分		高齢者	身体 障害者	知的・ 精神障害者	児童	その他	合計
個人	延べ人数	160人	220人	127人	52人	249人	808人
グループ	回数	144回	5回	9回	6回	19回	183回
	延べ人数	734人	29人	45人	30人	69人	907人
合計		894人	249人	172人	82人	318人	1,715人

○登録ボランティア人数

個人 141人
 グループ加入者数 1,073人（60グループ）
 計 1,214人

ウ 収集ボランティア活動

（使用済み切手等整理：毎週水曜日、その他登録ボランティア・グループ
 による協力）

使用済み切手 182,032枚
 ベルマーク 69,721枚

③関係団体との連携・協力

流山市地域自立支援協議会 地域生活支援部会 ・地域包括ケアシステムについて ・防災について ・子どものメンタルヘルスについて 他	令和7年 5月27日、7月22日、 9月9日、11月11日 令和8年 1月27日、3月24日
流山市地域自立支援協議会 地域生活支援部会 精神障害者にも対応した 地域包括ケアシステム推進会議啓発講演会 ～ひとごとじゃない！！ 誰でもなりえる精神不調～ 「幸せな生活を送るためのヒント」	令和7年 11月15日 流山市生涯学習センター
流山市地域自立支援協議会 地域生活支援部会 子どもたちのご家族に贈る講演会 心と体が成長する中で起こるSOS テーマ「早く気づいて、こころのサイン」 〈子どもたちの心と体の変化に対応するために…〉	令和8年 2月23日 南流山センター

④機材等の貸出状況

機材名	貸出回数
ワイヤレスマイクセット（ハンド・ピン）・ライト	161回
高齢者疑似体験セット	13回
プロジェクター	52回
避難所運営ゲーム（HUG）	4回
かき氷機	1回
アイマスク・点字器・白杖	11回
印刷機	23回
点字プリンター	25回
録音室	151回
合計	441回

⑤介護支援サポーター事業の推進

流山市より介護支援サポーター事業を受託し、高齢者の社会参加活動を通じた介護予防と地域貢献を推進するため、介護支援サポーター養成講座やフォローアップ講座、受入機関の見学会、広報紙の発行等を行いサポーター活動の普及と推進に努めた。

ア 介護支援サポーター養成講座

回数	期 日	場 所	内 容	参加者数
1	令和7年 5月16日	南流山センター	〈説明〉 「介護支援サポーター事業について」 ・制度概要、講座～登録～活動までの流れ	4人
2	6月17日	森の倶楽部	〈講義・実習〉 「介護支援サポーター活動での心がけ」 ・サポーター活動の心構え ・利用者との接し方～コミュニケーション・ 傾聴について～車いす試乗・体験～	13人
3	7月14日	初石公民館	【講師】 ・江戸川学園おおたかの森専門学校	5人
4	9月19日	東部公民館	〈講義〉 「活動先となる介護保険施設の紹介」	5人
5	10月16日	おおたかの森 センター	〈講義〉 「要介護認定者の心と体を理解する」	11人
6	12月 8日	中央公民館	【講師】 ・看護師	2人
7	令和8年 1月26日	ケアセンター		9人
合 計				38人

イ 介護支援サポーターフォローアップ講座

A 顔彩・ゼンタングル体験会

受入施設の利用者と職員の方へ、サポーターが作成した絵手紙（顔彩）とゼンタングルに応援メッセージを添えて届けた。

また、夏休み期間中、ボランティアに関心のある小学生等も体験会に参加し、世代間交流を図った。

回数	開催日	場 所	参加者数
1	令和7年 8月19日	ケアセンター	16人
2	8月21日	南流山センター	16人
合 計			32人

※受入機関37ヶ所へ送付

B 「傾聴スキルを身につける」

座学と演習により傾聴スキルの向上を図り、サポーター活動の
 促進に資することを目的に開催した。

回数	開催日	場 所	参加者数
1	令和7年11月17日	ケアセンター	14人
2	12月15日		11人
合 計			25人

C 「介護支援サポーターと受入施設の交流会」

サポーターと受入施設担当者の意見交換等を行い、施設の受入
 担当者とのフォローアップに努めた。

回数	開催日	場 所	参加者数
1	令和7年12月 3日	ケアセンター	19人

D 「認知症の方との関わり方」

認知症の基本や認知症の方との関わり方を学習し、サポーター
 活動の増進に努めた。

回数	開催日	場 所	参加者数
1	令和8年 1月20日	おおたかの森 センター	23人

E 「支援できるカラダづくりのために」

高齢者の食事や栄養、健康と疾病について学び、サポーター自身
 の介護予防や高齢者の健康を支援することで、サポーター活動の増
 進に努めた。

回数	開催日	場 所	参加者数
1	令和8年 1月30日	おおたかの森 センター	21人

F メッセージカードの送付

内 容	参加者数
サポーターが、自宅で施設利用者や職員に向けた絵手紙 やメッセージカードを作成し、ボランティアセンターで取 りまとめのうえ、受入機関（77カ所）へ送付した。	72人

ウ 介護支援サポーター受入機関見学会

介護支援サポーター事業の推進に係り、サポーター活動のさらなる充実と受入機関におけるサポーターの受入促進に努めた。

回数	開催日	場 所	参加者数
1	令和8年 2月 3日	流山市 デイサービスセンター	2人

エ 介護支援サポーター活動状況

受入施設数	77施設
登録者	677人
活動者数	1,107人
延べ参加者数	4,166人

令和8年3月31日現在 受入再開施設 61施設

(6)相談事業

①心配ごと相談所の開設

ケアセンターにおいて、心配ごと相談所を毎週水曜日（午後1時から3時30分まで）に開設し、市民の心配ごと・悩みごとの相談に民生委員・児童委員（18人）が2人体制で応じ、その解消に努めた。

令和7年12月以降は事業の見直しに伴い、相談所を休止とした。

○利用状況

開設日数	35日
相談件数	35件

○相談内容内訳

相談内容	件数	相談内容	件数
生計	1件	財産	0件
年金	0件	事故	0件
職業・生業	0件	児童福祉・母子保健	0件
住宅	1件	教育・青少年	0件

家族	6件	障害者福祉	1件
結婚	0件	母子福祉・父子福祉	0件
離婚	1件	高齢者福祉	0件
健康・保健・衛生	3件	苦情	1件
医療	0件	その他	21件
人権・法律	0件	合計	35件

○運営委員会等の開催状況

期日	内容	場所
令和7年 5月23日	第1回心配ごと相談所運営委員会 ・令和6年度心配ごと相談所事業報告 ・令和7年度心配ごと相談所事業計画 ・事例研究	ケアセンター
7月25日	心配ごと相談所研修会 演題：「地域包括支援センターの役割と介護保険について」	
10月24日	第2回心配ごと相談所運営委員会 ・相談業務の総括について	

②成年後見相談所の開設

成年後見に関する相談所を開設し、高齢や障害などによって判断能力に不安がある方を法律的に支援する制度についての疑問や利用法等の相談に応じ、問題解決に努めた。

また、成年後見制度利用促進事業（20頁～）との連携により1年を通じて相談所を開設することができ、利用者の利便性の向上を図った。

回数	期日	場所	相談者数
1	令和7年 5月27日	ケアセンター	3人
2	7月10日		3人
3	9月19日		3人
4	11月20日		1人
5	令和8年 1月20日		1人
6	3月5日		3人

市民後見人に加え、第3回、第6回については、司法書士と社会福祉士のペアによる専門相談を実施し、成年後見制度をはじめとした一般的な終活に関する相談だけでなく、法律や福祉の専門的領域の具体的な相談ニーズに応じていくことに努めた。

(7)成年後見制度利用促進事業

令和3年度より流山市から成年後見制度利用促進に係る地域連携ネットワーク中核機関業務を「流山市成年後見推進センター（中核機関）」として受託し、認知症や知的障害、精神障害等により財産の管理や日常生活に支障のある方を社会や地域で支えるための権利擁護支援につなげるため、成年後見制度利用促進に係る各種事業を展開した。

① ネットワークの構築・運用

地域や福祉、行政等に司法を加えた成年後見地域連携ネットワークを構築し、権利擁護支援の体制整備を行う目的で「成年後見地域連携ネットワーク会議」「ながれやま権利サポート会議」「成年後見相談窓口連携会議」の3つの協議体を運営した。また、日常的に権利擁護支援の関係機関と連携を図り、様々な会議や説明会、研修会等に参加した。

ア 成年後見地域連携ネットワーク会議

定例会を3回、臨時会を1回開催した。流山市における権利擁護支援の現状や課題について情報交換し、体制整備のための協議がなされた。議事内容は流山市成年後見制度利用促進基本計画と連動している。

令和7年度は、権利擁護アドバイザー、受任者調整を見越した事前関与スキームについて、市民後見人の養成・育成及び受け皿となる場について、後見人支援について、流山市成年後見推進センターの実績について、情報交換及び協議が行われた。

回	期日	内容	場所	参加者数
1	令和7年 5月26日	臨時会 受任者調整を見越した専門職の事前関与スキームについて	ケア センター	12人
2	7月18日	第1回定例会 受任者調整機能を見越した事前関与スキーム 後見業務の担い手拡充について	ケア センター	25人

3	10月15日	第2回定例会 受任者調整を見越した事前関与スキーム 後見活動の支援について	ケア センター	22人
4	令和8年 1月27日	第3回定例会 スキームおよびアドバイザーの要綱 成年後見推進センターの活動実績について	ケア センター	19人

イ ながれやま権利サポート会議

3回開催した。個別の支援困難ケースについて、専門的な知見と法根拠を基に、多角的な視点で支援方針やチーム支援の在り方等が協議された。

回数	期日	検討ケース	場所	参加者数
1	令和7年 5月26日	2件	ケアセンター	12人
2	8月14日	2件		13人
3	令和8年 3月10日	2件		19人

ウ 成年後見相談窓口連携会議

3回開催した。権利擁護支援の相談窓口となる事業所を対象とし、成年後見地域連携ネットワーク会議の「事前会議」と、権利擁護支援の「勉強会」という2つの機能を有し、各事業所が有益な情報を交換し共有することで、相談支援機能の向上を図った。

回数	期日	内容	場所	参加者数
1	令和7年 6月27日	第1回ネットワーク会議議題について 勉強会テーマ「中核地域生活支援センター ほっとねっとの事業内容について」	ケアセンター	24人
2	9月26日	第2回ネットワーク会議議題について 勉強会テーマ「市民後見人の会（法人後見） における任意後見制度の利用と有効な活用		22人
3	令和8年 1月9日	第3回ネットワーク会議議題について 勉強会テーマ「流山市権利アドバイザー 設置要綱・受任者調整を見越した事前関与 スキーム実施要項について」		21人

エ 流山市権利擁護アドバイザー（プレ実施）

弁護士から支援困難ケースに対する課題整理・法的助言を受ける目的で、6回実施した。

回数	期日	助言者	方法	参加者数
1	令和7年 6月4日	東葛総合法律事務所 長浜 有平弁護士	面談	6名
2	7月1日	東葛総合法律事務所 長浜 有平弁護士	面談	5名
3	8月15日	東葛総合法律事務所 長浜 有平弁護士	面談	6名
4	9月16日	東葛総合法律事務所 長浜 有平弁護士	面談	3名
5	10月27日	東葛総合法律事務所 長浜 有平弁護士	オン ライン	7名
6	令和8年 3月11日	柏の葉法律事務所 松川 葉月弁護士	面談	7名

オ 個別ケース会議

36回開催した。主に成年後見制度の利用を想定した複合的な問題に対し、関係者が情報を共有し支援方針や役割を検討した。このうち5回は「成年後見地域連携ネットワーク会議」で協議中である「受任者調整を見越した事前関与スキーム」の模擬（プレ）として行った。

カ 流山市高齢者虐待防止ネットワーク

流山市高齢者虐待防止ネットワークの委員として、合同会（1回）と担当者会（2回）に参加した。

キ 流山市高齢者虐待対応進行管理等検討会

流山市健康福祉部高齢者支援課と流山市地域包括支援センターが行う当検会に4回参加した。高齢者虐待ケースについて、成年後見制度活用の観点から意見を述べ、地域包括支援センターと協働すべきケースの把握に努めた。

ク 流山市地域自立支援協議会権利擁護部会

権利擁護部会の部会員として、6回行われた定例会議と、令和7年12月9日に開催された権利擁護部会主催の「障害者虐待防止研修」に主催側として参加した。

ケ 流山市民生委員児童委員協議会への働きかけ

4月と9月の理事会及び、5月と10月各地区定例会において、成年後見制度と成年後見推進センターの説明、連携強化の働きかけとイベントの周知を行った。

コ 流山市老人クラブ連合会への働きかけ

6月10日に開催された理事会で成年後見制度と成年後見推進センターの説明、連携強化の働きかけとイベントの周知を行った。

サ 介護と医療の連携に関する働きかけ

流山市介護と医療をつむぐ会の令和7年12月12日開催の第3回研修会、令和8年2月12日開催の第4回研修会に参加し、関係機関との意見交換を行った。

令和7年10月4日開催の介護支援課主催「令和7年度市民公開講座」に参加した。「もしばなゲーム」のファシリテーターを務め、地域住民、関係機関と交流した。

シ 権利擁護支援の相談窓口との連携

北部地域包括支援センター主催の「北部地域連絡会」に6回、南部地域包括支援センター主催の「コミュニティケア会議」に1回、中部地域包括支援センター主催「コミュニティユイ会議」に1回、東部地域包括支援センター主催「ケアマネのつどい」に1回参加した。いずれも関係機関との地域課題等の情報共有、事例検討などにより連携を深めるための地域ケア会議として実施されている。

ス 日常生活自立支援事業との連携

令和8年2月27日に開催された「令和7年度流山市社会福祉協議会日常生活自立支援事業関係機関連絡会議」に参加し、関係機関との意見交換を行った。

②相談支援業務

成年後見制度等の権利擁護支援についての相談窓口として、電話・来所・訪問、その他メールやFAXを活用した相談対応を行った。

各地域の一次相談窓口となる高齢者支援の地域包括支援センターや、

障害者支援の相談支援事業委託事業所、その他関係機関と連携し、二次相談窓口としての役割を意識して相談対応にあたった。

○年間相談実件数 201件

○相談形態別延べ件数

電話	来所	訪問	その他 (メール・FAX等)	合計
993件	117件	164件	301件	1575件

○相談内容別延べ件数

成年後見 制度等	成年後見 申立支援	成年後見 市長申立	任意後見 制度	日常生活自立 支援事業	任意代理 契約
1365件	12件	36件	25件	76件	38件
民事信託	遺産・相続・ 死後事務	消費者被害 防止・対応	DV防止・対応	その他	
3件	103件	6件	9件	72件	

○対応困難事例実件数

8050 問題 ※1	ダブルケア ※2	ヤングケアラー ※3	介護離職	貧困世帯	独居認知症
4件	0件	0件	0件	22件	43件
認知世帯 ※4	若年性 認知症	知的・精神 障害関連			
8件	4件	59件			

※1 概ね80歳代の高齢の親と無職独身の子のみが同居し、社会的孤立を深め、必要な支援につながらない課題を抱える世帯

※2 育児期間と高齢の親の介護期間が重なるなど、複数のケア関係とそこにおける複合的課題を抱える世帯

※3 家族の介護や日常的な世話を過度に行っている子どもや若者がいる世帯

※4 認知症の介護を、同じく認知症である者が行っている世帯

③成年後見・相続・遺言無料個別相談会

弁護士と社会福祉士による無料個別相談会を6回開催し、奇数月の成年後見相談所と合わせ周知活動を実施した。

(17件19名参加)

回数	開催日	場所	相談件数	相談者数
1	令和7年 4月25日	スターズおおたかの森 ホール	4件	4人
2	6月16日	生涯学習センター	4件	4人
3	8月 8日	ケアセンター	4件	6人
4	10月28日	北部公民館	2件	2人
5	12月15日	南流山センター	3件	3人
6	令和8年 2月11日	初石公民館	4件	4人

④申立て支援業務

親族が成年後見申立てを行う際の、書類作成等の助言や専門職団体の情報提供を行った。

市長申立てが必要なケースにおいて、スムーズに手続きが行われるよう、流山市役所担当課や、一次相談窓口の事業所と連絡調整や打ち合わせを密に行った。

⑤講演会運營業務

○市民向け講演会

期日	内容	場所	参加者数
令和7年 11月14日	成年後見制度講演会 「障害のある子の『親なきあと』 ～親ある間にできること～」 【講師】親なきあと相談室主宰 渡部 伸氏	生涯学習センター	201人

○出前講座

様々な団体からの申込みに応じて出前講座を12回実施した。
参加者は合計222名。

回数	期日	申込団体名	内容	参加者数
1	令和7年 5月29日	高齢者ふれあいの家 えがお	成年後見制度と日常生活自立支援 事業の概要について 場所：高齢者ふれあいの家えがお	12人
2	6月24日	流山市北部地域包括 支援センター	北部包括ケアマネ交流会にて 成年後見制度と高齢者虐待・法テ ラスの利用について 場所：森の図書館	24人

3	8月 8日	老人クラブ連合会 単位クラブ敬寿会	成年後見制度について 場所：加岸自治会館	25人
4	9月 6日	地域支援センター こころ	障害をもつ子の親なきあとについて ～はじめてみよう将来の準備～ 場所：地域支援センターこころ	10人
5	9月11日	東深井中学校区民生 委員児童委員協議会	東深井中学校区定例会にて 成年後見制度の実情について 場所：森の倶楽部	19人
6	9月24日	流山市北部西地域 包括支援センター	北部西包括ケアマネ交流会にて ケアマネの知っておくべきシリーズ 成年後見制度と日常生活自立支援 事業について	22人
7	10月11日	発達障害者家族会 ひまわりの会	成年後見制度の手続き、費用、後見人 の業務について 場所：初石公民館	13人
8	10月30日	流山市消費生活 センター	成年後見推進センターに寄せられる 年間相談数および内容について 場所：流山市役所 302 会議室	5人
9	11月 6日	千葉県東葛の森 特別支援学校	保護者および教師向け成年後見制度 の概要説明 場所：東葛の森特別支援学校	31人
10	令和8年 1月22日	高齢者ふれあいの家 いそいそ	成年後見制度、老い支度について 場所：高齢者ふれあいの家いそいそ	18人
11	2月20日	大畔の森自治会	成年後見制度について（自治会の セーフティーネットと関連して） 場所：大畔の森自治会館	7人
12	3月24日	高齢者ふれあいの家 かえるクラブ	成年後見制度について（南部地域 包括支援センターと共に寸劇を交 えて） 場所：南流山センター	36人

⑥研修会開催業務

○専門職対象研修会（オンライン）

期日	内容	対象	参加者数
令和8年 2月17日	「権利擁護のファーストステップにおける意思決定支援～繋ぐ段階で支援者が向き合う本人の意志とジレンマ～」（前編） 【講師】あすかフロンティア事務所 岩佐 博行司法書士	市内および近隣市の医療機関 居宅介護支援事業所、流山市 特定指定相談支援事業所、 地域包括支援センター、 ネットワーク会議委員、 流山市職員	62人

⑦調査・集計・分析業務

先進市の成年後見中核機関の体制や取り組み、法人後見、終活関連事業について情報収集を行った。

令和7年5月23日、浦安市社会福祉協議会を訪問。法人後見と受任者調整機能について視察、情報交換を行った。

令和7年6月5日、印西市社会福祉協議会を訪問。法人後見と受任者調整機能について視察、情報交換を行った。

令和7年10月3日、流山高齢者安心ネットと合同で、福岡市社会福祉協議会における終活サポートセンターについてオンライン聴取を行った。

令和7年10月16日、我孫子市社会福祉協議会を訪問。終活支援事業等について視察、情報交換を行った。

令和7年10月21日、足立区社会福祉協議会を訪問。法人後見と受任者調整機能について視察、情報交換を行った。

令和7年10月29日、八千代市社会福祉協議会を訪問。法人後見と受任者調整機能について視察、情報交換を行った。

令和7年11月17日、松戸健康福祉センター・中核地域生活センター連絡調整会議に参加し、意見交換を行った。

令和7年12月5日、市川市において開催された「東葛地区中核機関意見交換会」に参加し、我孫子市、市川市、浦安市、船橋市、松戸市の成年後見中核機関との情報交換を行った。

令和8年2月12日に千葉県社会福祉協議会主催成年後見制度利用促進地区別意見交換会（東葛北地区）に参加し、我孫子市、柏市、鎌ヶ谷市、野田市、松戸市の成年後見制度関連機関との情報交換を行った。

日々寄せられる相談や、無料個別相談会において、相談内容や対象者の情報、居住地区などの情報を分類し集計することで、相談の傾向等を分析した。

⑧ 広報業務

成年後見制度周知用のパンフレットを1,000部、成年後見推進センター周知と出前講座のチラシを1,000部、無料個別相談会のチラシを1,500部、市民向け講演会のチラシを2,000部用意し、時期を考慮しつつ市内公共施設や関係団体に対し、訪問による配架依頼を行った。

また、7年度は新たに金融機関や公共交通機関などへチラシ配布、制度周知を実施した。

「ながれやま福祉だより」「広報ながれやま」への掲載、ホームページ等SNSへの発信によって、センターや関連イベントの周知や、成年後見制度等についての情報発信を行った。

(8) 福祉サービス利用援助事業(日常生活自立支援事業)

判断能力が十分でないため、財産管理や福祉サービスの利用手続きが独力では難しい高齢者や障害者等に対して、日常生活自立支援事業の利用に関する相談、訪問調査、県契約締結審査会へ審査依頼、契約、実際の支援活動を実施した。

令和7年度は急増した前年度以上に相談件数や契約者が増加した。

当事業の認知度を高め、必要な方に必要に応じて利用につながるよう、本会のパンフレットやホームページ、「ながれやま福祉だより」に2回事業内容を掲載したほか、流山市成年後見推進センターと連携し、各地域包括支援センター主催のケアマネ交流会や、相談支援専門員の連絡会議等で成年後見制度と関連させて事業の説明を行った。

昨年に引き続き、市内の関係機関(行政・地域包括支援センター・民生委員等)や千葉県後見支援センターの協力により、関係機関連絡会議を開催し、高齢者・障害者の権利擁護に関係する機関の相互連携及び本事業の円滑な推進を図るための協議を行った。

生活支援員の増員を図るため「ながれやま福祉だより」で生活支援員を公募し、応募のあった5名及び社会福祉士の実習で当事業に興味を持たれ生活支援員に応募した3名に対し、生活支援員候補者としての事業説明や面接を実施した。

その後千葉県後見支援センター主催の生活支援員養成研修を受講することで事業への理解を深め、生活支援員として活躍できるよう当事業での支援体制の強化に努めた。

○相談者内訳

高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	合計
55人	10人	8人	7人	80人

○相談内容内訳

相談内容	件数
福祉サービスの手続き等	4件
日常的な金銭の管理等	68件
本事業等に関する問い合わせ	5件
虐待等に関すること	1件
その他	2件

○相談・訪問調査等（相談継続ケース）

・相談・訪問調査等延べ件数

高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	合計	うち訪問調査件数
651件	126件	227件	47件	1,051件	29件

・利用者数

54人（年度当初32人利用 新規契約22人、終了13人）

・支援回数・時間（利用者54人の延べ支援回数・時間）

支援回数：528回

支援時間：1,041時間41分

○支援内容

① 福祉サービス利用援助（福祉サービス利用手続きの援助）	54人
② 財産管理サービス（預貯金の引出しや公共料金等の支払等の援助）	49人
③ 財産保全サービス（通帳・実印・不動産権利証等の貸金庫での保管）	2人

○生活支援員（利用者宅を定期訪問して上記①・②の支援を行う。）

現任者：19人（うち令和7年度新任6人）

登録者：7人（うち令和7年度新規登録8人）

退任者：3人

○生活支援員募集記事掲載

ながれやま福祉だより 第206号（令和7年9月15日発行）

〃 第208号（令和8年3月15日発行）

○生活支援員養成研修会（千葉県後見支援センター主催）

期日	内容	会場	人数
令和7年 4月23日	①日常生活自立支援事業の概要について （講義・映像資料視聴含む） ②生活支援員業務について（講義） ③生活支援員の関わり方の基本的な視点（演習） ④職務倫理の徹底について（講義）	千葉県社会福祉 センター	4名
令和7年 7月30日		ケアセンター 第4研修室 （オンライン）	3名
令和7年 10月22日		千葉県社会福祉 センター	1名

○出前講座等

令和7年 5月29日	高齢者ふれあいの家「えがお」 日常生活自立支援事業についての説明 （成年後見推進センターと合同で実施）
令和7年 9月24日	北部地域ケアマネ交流会 日常生活自立支援事業についての説明・事例に基づきグループワーク （成年後見推進センターと合同で実施）

（9）流山市生きづらさ包括支援事業 よりそいサポートセンター

令和6年10月1日から、流山市社会福祉協議会は、流山市が実施する流山市生きづらさ包括支援事業のうち、「アウトリーチ等を通じた継続支援事業」（社会福祉法第106条の4第2項第4号）（以下「継続的支援事業」という。）と「参加支援事業」（同項第2号）を事業受託し、その事業拠点として「よりそいサポートセンター」を開設した。

①事業内容について

- 継続支援事業…生活課題を抱える本人・世帯と直接かつ継続的に関わるための信頼関係の構築及び地域や社会との繋がりづくりに向けた継続した支援（伴走支援）。

- 参加支援事業…生活課題を抱えながら孤立している本人・世帯が、地域や社会との関わりを回復又は拡大し、自らの役割を見出すために多様な社会資源とのつながりを確保するための支援。以上の2事業を受託。

よりそいサポートセンターでは、「どこに相談したら良いか分からない」「自分から相談支援機関に相談することが難しい」という場合や、様々な困りごとを抱えた地域住民がよりそいサポートセンターに相談した場合、どんな相談でも受け止め、具体的な支援につながるまでの間、孤立しないように繋がり続けている。

既存の相談機関で対応できる場合は適切な機関に繋ぎ、相談内容が複雑で複合的な課題や制度の狭間の課題であるなど多様な支援機関の協働による支援が必要と判断された場合には、多機関協働事業者である流山市（福祉政策課）につなぎ、重層的支援会議・支援会議を経て、包括的な支援を実施している。

②相談実績

令和7年度の新規相談件数は68名、継続は73名となっている。令和7年度では新出張カフェ」を始めた。出張カフェを通じて新規の相談に繋がっているケースもある。令和8年7月より「南流山センター」で新たに出張カフェを始めることが決まっており、他松ヶ丘地区にて出張カフェを開始する計画もある。昨年度同様、直営のカフェや「ダブルケアカフェ」、「エールひろば」を開催し参加者には好評を得ている。

○相談件数、対応件数

対象月	受付件数	電話	自宅等 訪問	来所	メール
R7年4月	新規 13名、継続 44名	82	13	16	1
5月	新規 4名、継続 54名	123	12	16	6
6月	新規 13名、継続 51名	103	12	13	10
7月	新規 3名、継続 50名	74	3	3	3
8月	新規 6名、継続 59名	67	7	17	9
9月	新規 7名、継続 56名	69	11	16	13
10月	新規 3名、継続 61名	67	8	23	20
11月	新規 4名、継続 60名	63	4	11	22
12月	新規 4名、継続 59名	50	4	27	11
R8年1月	新規 6名、継続 68名	37	2	20	14

2月	新規 2名、継続 74名	44	3	23	14
3月	新規 3名、継続 73名	60	1	25	12
合計	新規 68名、継続 73名	839	80	210	135
参加支援（カフェ直営） 233件					

③重層的支援会議、支援会議及び代表者会議

定期的な会議を通じてか相談支援機関からの問い合わせは減ってきており、重層的支援体制の理解が進んできていると考えられる。令和7年12月より参加支援の対象者の支援が始まっている。

期日	会議内容
5月8日	重層的支援会議定例会（市役所各課、市内包括的相談事業所）
7月10日	重層的支援会議定例会（市役所各課、市内包括的相談事業所）・多機関協働事業研修会 （市役所各課、市内包括的相談事業所）
9月17日	重層的支援会議定例会（市役所各課、市内包括的相談事業所）
11月7日	重層的支援会議定例会（市役所各課、市内包括的相談事業所）
11月15日	多機関協働事業研修会（市役所各課、市内包括的相談事業所）
12月11日	支援会議（市役所福祉政策課・子ども家庭課・障害者支援課、東部包括支援センター）
12月19日	支援会議（市役所福祉政策課）
1月22日	重層的支援会議定例会（市役所各課、市内包括的相談事業所）
2月4日	生きづらさ包括支援事業代表者会議（重層的支援会議代表者会議）
3月12日	重層的支援会議定例会（市役所各課、市内包括的相談事業所）
3月12日	支援会議（市役所福祉政策課・社会福祉課、ユーマネット、訪問看護事業所、社会福祉協議会、市内相談事業所）
計	11

④普及啓発

令和7年6月にリーフレット、12月にHPを刷新し、改めてよりそいサポートセンターの普及啓発に努めた。

○普及啓発活動先一覧

	日付	配布先
1	4月28日	地区社会福祉協議会全体会
2	5月28日	北部西ケアマネ交流会
3	6月27日	流山市ひとり親福祉会（わかたけ）

4	6月27日	南流山地区社会福祉協議会
5	6月27日	特別養護老人ホーム春の苑
6	7月1日	流山市役所
7	7月11日	流山市地域子育て支援拠点 ぽっかぽか
8	7月11日	市民活動推進センター
9	7月11日	教育相談
10	7月16日	民生委員児童委員協議会
11	7月17日	社会福祉法人ぶるーむの園
12	7月23日	「医療的ケア対応」すくすくハウス
13	7月29日	南流山中学校
14	7月31日	浄信寺
15	8月19日	NPO 法人子ども支援事業リコネクト
16	8月20日	NPO 子どもえんてらす「クッションハウス」
17	8月26日	学びてらす
18	9月2日	視覚障害者協会
19	9月16日	ひきこもり応援ネット
20	9月18日	生活クラブ風の村 から風流
21	9月22日	リハスワーク
22	9月30日	精神科訪問看護ステーション なぎ
23	10月8日	市民助け合いネット
24	12月12日	わかば薬局
25	3月18日	南流山センター

⑤他機関との連携

相談者のニーズを確認し、各包括や障害者相談支援事業所、訪問看護、市民団体等との連携を行っている。令和7年度では昨年度に比べ、若い年代の生活困窮や不登校、社会参加や就労についての相談が増え専門機関との連携を進めている。

○連携した機関

	日付	機関名	方法
1	4月3日	多機能型事業所マーレ	来所
2	4月10日	南部地域包括支援センター	訪問
3	4月14日	地域包括支援センター	電話
4	4月16日	南部地域包括支援センター	
5	4月17日	福祉政策課	
6	4月18日	北部地域包括支援センター	

7	4月18日	東部地域包括支援センター	
8	4月22日	なぎさ	
9	4月22日	北部地域包括支援センター	
10	4月23日	北部地域包括支援センター	
11	4月28日	南部地域包括支援センター	
12	4月28日	就労移行支援事業所 Pinto	
13	5月 2日	すみれ	
14	5月 7日	南部地域包括支援センター	電話
15	5月 9日	南部地域包括支援センター	
16	5月 9日	東部地域包括支援センター	
17	5月 9日	中部地域包括支援センター	
18	5月13日	医療法人社団宙麦会 ひだクリニック	電話
19	5月13日	南部地域包括支援センター	
20	5月16日	訪問看護ステーションなぎ	
21	5月19日	北部地域包括支援センター	
22	5月21日	南部地域包括支援センター	
23	5月22日	医療法人社団宙麦会 ひだクリニック	訪問
24	5月23日	南部地域包括支援センター	電話
25	5月26日	保健センター	
26	5月27日	医療法人社団宙麦会 ひだクリニック	訪問
27	5月27日	成年後見推進センター	
28	5月28日	北部西地域包括支援センター	電話
29	5月29日	南部地域包括支援センター	訪問
30	5月29日	北部地域包括支援センター	電話
31	5月30日	医療法人社団宙麦会 ひだクリニック	電話
32	5月30日	すみれ	電話
33	6月 2日	東葛病院	
34	6月 2日	多機能型事業所マーレ	
35	6月 6日	東部地域包括支援センター	
36	6月 6日	流山市社会福祉協議会こまぎ園	
37	6月 9日	南部地域包括支援センター	訪問
38	6月 9日	相談支援事業所ファーレ	
39	6月17日	就労移行支援事業所リンクス松戸	
40	6月19日	中核地域生活支援センターまつど ほっとねっと	
41	6月27日	居宅介護支援事業所	
42	7月15日	居宅介護支援事業所	
43	7月17日	流山中央病院	電話

44	7月18日	流山中央病院	来所
45	7月22日	就労移行支援事業所 Pinto	来所
46	7月22日	不登校応援ネット	電話
47	7月22日	訪問看護ステーションなぎ	電話
48	7月22日	生活クラブ風の村 居宅介護支援事業所	電話
49	7月23日	生活クラブ風の村 居宅介護支援事業所	電話
50	7月23日	訪問看護ステーションなぎ	電話
51	7月24日	ウェルリーフ初石 居宅介護支援事業所	
52	7月24日	流山市社会福祉協議会	
53	7月25日	訪問看護ステーションなぎ	来所
54	7月28日	多機能型事業所マーレ	電話
55	7月29日	訪問看護ステーションなぎ	来所
56	7月29日	issve+design	来所
57	7月29日	南流山中学校	来所
58	7月30日	東葛病院腎センター	電話
59	7月31日	南部地域包括支援センター	電話
60	8月1日	柏地域支援センターあいネット	電話
61	8月1日	流山中央病院	電話
62	8月4日	相談支援事業所ファーレ	
63	8月7日	訪問看護ステーションなぎ	
64	8月7日	昴在宅クリニック	
65	8月8日	昴在宅クリニック	電話
66	8月8日	訪問看護ステーションなぎ	
67	8月13日	昴在宅クリニック	電話
68	8月13日	就労継続支援B型事業所リハスワーク	来所
69	8月15日	昴在宅クリニック	電話
70	8月18日	昴在宅クリニック	電話
71	8月20日	あさひ訪問看護ステーション	電話
72	8月20日	民生委員	電話
73	8月21日	がんカフェ	
74	8月21日	昴在宅クリニック	電話
75	8月22日	訪問看護ステーションなぎ	
76	8月25日	流山中央病院	電話
77	8月26日	流山中央病院	電話
78	8月26日	こんどう動物病院	電話
79	8月27日	認定NPO法人 CoCoT	訪問
80	8月28日	流山中央病院	

81	9月 3日	流山中央病院	電話
82	9月 3日	多機能型事業所マーレ	電話
83	9月 4日	民生委員	電話
84	9月 5日	訪問看護ステーションなぎ	来所
85	9月 9日	就労移行支援事業所 Pinto	来所
86	9月 9日	昴在宅クリニック	
87	9月12日	包括	
88	9月16日	ひだまり	電話
89	9月16日	NPO 法人子ども支援事業リコネクト	来所
90	9月17日	就労移行支援事業所 Pinto	訪問
91	9月18日	流山市社会福祉協議会	
92	9月18日	流山中央病院	
93	9月22日	あさひ訪問看護ステーション	
94	9月26日	ゆんたく HOME 江戸川台	訪問
95	10月 6日	流山中央病院	
96	10月 7日	民生委員	来所
97	10月 8日	サンコーテクノ株式会社	訪問
98	10月 8日	南流山センター	訪問
99	10月 8日	NPO 法人市民助け合いネット	訪問
100	10月 9日	民生委員	
101	10月15日	就労移行支援事業所リンクス松戸	
102	10月20日	生活クラブ風の村 から風流	
103	10月23日	生活クラブ風の村 から風流	
104	10月24日	エールひろば	
105	10月24日	豆の力	
106	11月 6日	ジョブサポート流山	
107	11月10日	認定 NPO 法人 CoCoT	
108	11月18日	流山中央病院	電話
109	11月25日	北部西地域包括支援センター	
110	11月25日	NPO 法人子ども支援事業リコネクト	電話
111	11月26日	北部西地域包括支援センター	
112	11月26日	NPO 法人子供支援事業所リコネクト	
113	11月27日	医療法人社団青嶺会 松戸整形外科病院	電話
114	11月28日	NPO 法人子供支援事業所リコネクト	
115	12月 1日	NPO 法人子供支援事業所リコネクト	
116	12月 2日	NPO 法人子供支援事業所リコネクト	メール
117	12月 2日	流山中央病院	

118	12月3日	民生委員	
119	12月3日	松戸健康福祉センター	
120	12月4日	流山おおたかの森駅前Office（就労移行支援事業所）	
121	12月4日	就労移行支援事業所リンクス柏	
122	12月8日	株式会社アクト・デザイン	
123	12月8日	NPO 法人子供支援事業所リコネクト	
124	12月10日	成年後見推進センター	
125	12月10日	民生委員	
126	12月16日	NPO 法人子供支援事業所リコネクト	
127	12月16日	ケアプランセンターゆうき	
128	12月23日	就労移行支援事業所ディーキャリア	
129	12月26日	エールひろば	
130	1月5日	訪問看護ステーションなぎ	来所
131	1月8日	中部地域包括支援センター	電話
132	1月15日	市民活動推進センター	電話
133	1月19日	南部地域包括支援センター	
134	1月20日	まちの保健室	
135	1月26日	まちの保健室	
136	1月26日	南部地域包括支援センター	電話
137	1月27日	NPO 法人子供支援事業所リコネクト	電話
138	1月29日	NPO 法人子供支援事業所リコネクト	電話
139	1月30日	中核地域生活支援センターまつど ほっとねっと	来所
140	2月3日	流山中央病院	電話
141	2月10日	中核地域生活支援センターまつど ほっとねっと	電話
142	2月13日	流山市くらしサポートセンターユーマネット	電話
143	2月13日	NPO 法人子供支援事業所リコネクト	
144	2月17日	訪問看護ステーションなぎ	
145	2月20日	流山市社会福祉協議会こまぎ園	
146	2月20日	北部西地域包括支援センター	
147	2月27日	NPO 法人子供支援事業所リコネクト	
148	3月2日	新松戸中央病院	電話
149	3月3日	相談支援事業所ファーレ	
150	3月10日	流山市くらしサポートセンターユーマネット	電話
151	3月11日	NPO 法人市民助け合いネット	訪問
152	3月12日	流山市くらしサポートセンターユーマネット	電話
153	3月16日	南部地域包括支援センター	

154	3月17日	彩のこしがや訪問看護ステーション	
155	3月18日	流山市くらしサポートセンターユーマット	電話
156	3月23日	NPO 法人子供支援事業所リコネクト	
157	3月23日	NPO 法人子供支援事業所リコネクト	
158	3月25日	あさひ訪問看護ステーション	電話
159	3月27日	NPO 法人子供支援事業所リコネクト	電話

(10)共同募金配分金事業

ボランティアセンター	10頁～18頁参照（ボランティア活動促進）																
身体、知的障害者対策	<p>・車いすの貸出し</p> <p>日常生活に支障を持つ人々の社会参加を図るとともに、文化的な生活を営めるよう、市内に居住する心身障害者（児）や高齢者等、これらを介助、指導する家族、ボランティア、関係機関、団体の役職員等に車いすを貸し出し、支援に努めた。</p> <p>○車いす貸出年間実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>設置台数</th> <th>申請件数</th> <th>貸出台数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケアセンター</td> <td>102台</td> <td>382件</td> <td>446台</td> </tr> <tr> <td>流山福祉会館</td> <td>5台</td> <td>46件</td> <td>46台</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>107台</td> <td>428件</td> <td>492台</td> </tr> </tbody> </table>		設置台数	申請件数	貸出台数	ケアセンター	102台	382件	446台	流山福祉会館	5台	46件	46台	合計	107台	428件	492台
	設置台数	申請件数	貸出台数														
ケアセンター	102台	382件	446台														
流山福祉会館	5台	46件	46台														
合計	107台	428件	492台														
広報啓発	5頁参照（広報活動）																
福祉活動	6頁参照（福祉活動団体支援）																
歳末たすけあい運動	<p>低所得者（要保護世帯）や交通遺児世帯等が明るいお正月を迎えられるように、民生委員・児童委員の協力を得て、年末に援護金等を届けるとともに、従来から支援している障害者支援施設利用者や福祉施設入所者、住民の手作りにより運営されている子ども食堂のネットワークに対して支援金を届けた。※配分内容については下表のとおり</p>																

○歳末たすけあい募金の配分

内容	世帯数等	人数	金額（千円）
要保護世帯	12世帯	18人	455
生活困窮者等支援	2か所		100
市給食サービス利用者（おせち料理）		122人	353
養護老人ホーム入所者		4人	80
障害福祉サービス事業所等	97事業所		1,400
児童養護施設入所児・里親委託児童・子ども食堂		19人 ・1団体	567
福祉だより第204号発行費（共同募金特集号）			100
配分経費			38
合計			3,098

(11)共同募金事業への協力

赤い羽根共同募金は、戦後間もない昭和22年に市民が主体の国民助け合い運動としてスタートして以来、公的政策のみで支えられない分野や地域福祉の課題解決に取り組む社会福祉団体等が行う福祉事業を支援するための財源の確保と、募金活動を通じて地域住民の相互の助け合いの精神を普及することを趣旨として、全国的に広く親しまれている。

なお、共同募金の中から毎年積み立てられている災害等準備金は、近年頻発する大規模災害時に活用されるもので、発災時に募集され被災者に直接配分される義援金と合わせ被災者・被災地支援に役立てられている。

また、歳末たすけあい募金運動は、共同募金運動の一環として、新年を迎える時期に、地域住民やボランティア・NPO団体、民生委員・児童委員、社会福祉法人、社会福祉協議会等の関係機関・団体の協力のもと、高齢者、障害者、子ども、生活困窮者、福祉サービスを必要とする人などへ誰もが地域福祉を支える一員として参加できるさまざまな福祉活動を展開し、孤立することなく自分らしく安心して暮らすことができる福祉のまちづくりへの幅広い理解と参加を図るものである。

本会では、千葉県共同募金会の流山市支会事務局を務め、社会福祉についての住民の理解とたすけあいの精神を高めるとともに、人々の善意による社会福祉事業の進展を図るため、共同募金運動を推進した。

(12)介護保険(社会福祉事業)

①訪問介護事業

日常生活に支障のある要支援及び要介護高齢者に対して訪問介護員を派遣し、自宅における身体介護や日常生活の支援に努めた。

また、より質の高い支援を提供できるよう、月1回以上、定期的に職員研修を実施し、介護技術の向上や必要な知識の習得に努めた。

さらに、感染対策としてPPE(個人用防護具)を常時携行して訪問するとともに、感染症対策、高齢者虐待防止、災害時対応等に関する研修を継続的に実施した。

○訪問介護員派遣状況

区分	訪問介護事業全体	左記のうち総合事業
利用者数	799人	174人
身体介護	2,050時間	0時間
生活援助	2,725時間	619時間
訪問時間合計	4,775時間	619時間
延べ訪問回数	4,671回	627回

○訪問介護員研修実施状況

事業所主催研修 年間63回

定例会のほか、介護実習、新人研修等を開催するとともに、個別指導を随時実施し、職員の介護技術の向上等資質の向上に努めた。

○ターミナル(看取り)ケア実施状況

年間1ケース

○ママ&ベビーヘルプ事業

妊娠期及び産褥期の親子に対して訪問介護員を派遣し、自宅における沐浴、オムツ交換、授乳等の援助や生活支援に努めた。

利用者数	9人
訪問時間数合計	51時間
延べ訪問回数	26回

○生活支援サービス事業

当事業所利用中の方で、給付対象外のサービスを必要としている利用者に対して必要な支援を行い、日常生活の支援に努めた。

利用者数	9人
訪問時間数合計	9時間
延べ訪問回数	10回

②通所介護事業（高齢者デイサービス）

要支援・総合事業対象及び要介護者を送迎し、介護保険法のケアプランに沿ったサービスの提供を行い、生活意欲の向上や社会的孤立感の解消、心身機能の維持向上と併せ、介護者の身体的・精神的な負担の軽減に努めた。

S Iプランナーを導入し、L I F Eに対応した社会的自立支援成果尺度に基づく適切なアセスメントと利用者意向の確認を行い、個別機能訓練計画書を立案し利用者一人一人に適した機能訓練を実施した。個別機能訓練をより効果のあるプログラムにするため、実施サポートとなる理学療法士が監修したプログラムアプリを導入し、目的別の機能訓練プログラムの作成を行い、実施した。

定例ミーティングを隔月開催し、職員間の情報共有に努めた。感染症対策委員会、BCP研修・訓練、高齢者虐待防止委員会を開催した。感染症予防対策についての研修や高齢者虐待防止研修等の法定研修は集合研修と動画配信研修を実施し、職員のスキルアップに努めた。

日々感染予防に徹して、サービスを提供した。

○サービスの種類・内容

項目	内容
①日常動作訓練	音楽・創作的活動・レクリエーション・屋外活動等
②健康指導	検温、脈拍及び血圧チェック・服薬管理・栄養指導
③生活指導・相談	日常生活上の訓練、指導、相談
④給食サービス	栄養価や衛生管理を考慮したミールパックを使用した食事の提供
⑤入浴サービス	一般浴・リフト浴を用意し、安全かつ快適な入浴の提供
⑥機能訓練	機能訓練指導員による心身等の状況に応じた機能の維持・向上訓練

○利用状況

開所日数		308日
利用者延べ人数		3,933人
内 訳	総合事業	77人
	要介護1	1,049人
	要介護2	1,200人
	要介護3	1,035人
	要介護4	565人
	要介護5	7人
入浴サービス利用者延べ人数		2,971人
給食サービス利用者延べ人数		3,933人
送迎サービス利用者延べ人数		7,792人

(13) 障害福祉サービス

① 障害者等訪問介護事業

日常生活に支障のある身体・知的・精神障害者（児）等に対して訪問介護員を派遣し、自宅における身体介護、日常生活の支援及び外出のための支援に努めた。

○訪問介護員派遣状況

利用者数	302人
身体介護時間数	1893.5時間
生活援助時間数	210時間
重度訪問時間数	1213.5時間
同行援護時間数	879時間
移動支援時間数（身体介護あり）	291時間
（身体介護なし）	3時間
通院介助（身体介助を伴わない）	60.5時間
通院介助（身体介助を伴う）	19.5時間
訪問時間数合計	4,570時間
延べ訪問回数	2,024回

○吸引等特定行為実施状況

人工呼吸器装着の重度の利用者 3 人に対して、痰の吸引や胃瘻による注入等の特定行為を実施した。

年間延べ訪問日数 5 5 2 日

②身体障害者デイサービス事業

流山市の指定管理を受け、在宅の身体障害者を送迎し、各種サービスの提供、専門講師によるリハビリ（松戸整形外科より理学療法士、作業療法士を派遣）、音楽療法、木彫り、書道、七宝焼、絵画などを通じ、心身機能の維持・向上、家庭内自立や職場復帰を目指す方の自立と、社会参加を促進し、併せて家族の身体的・精神的な負担の軽減に努めた。

利用者に満足していただけるようデイサービスセンターの廊下に「目安箱」を設置し、広く利用者等から意見を求め、デイサービスの運営の改善に努めた。

市民の方やご家族にデイサービスでの様子を紹介するため、市民まつりに参加し、利用者の作った作品を展示販売した。デイサービス事業への理解と関心を深めていただけるように、SNS（インスタグラム）を開設しPR活動を行った。

屋外活動については、利用者の希望（工場見学、電車体験、国際福祉機器展への参加）を取り入れ実施した。結果、就労Bへの移行、電動車イス等新しいツールを利用したQOLの向上と行動変容につながった。

定例ミーティングを開催し、職員間の情報共有、研修等を実施した。外部の研修にも積極的に参加をし、職員のスキルアップに努めた。

障害者虐待防止委員会を設置し、障害者虐待防止に努めた。また、日々感染予防に徹してサービスを提供した。

○サービスの種類・内容

項目	内容
①機能訓練	理学療法、作業療法、音楽療法
②作的活動	木彫り・書道・七宝焼き・絵画・作品作り・おやつ作り・フラワーアレンジメント等
③社会適応訓練	パソコン・ボッチャ・ペタボード・屋外活動（工場見学、電車体験、国際福祉機器展への参加）等
④健康指導	検温、脈拍及び血圧チェック・栄養指導
⑤更生相談	福祉、日常生活等の各種相談
⑥給食サービス	栄養士作成の献立による栄養及び身体状況・嗜好を考慮した食事の提供
⑦入浴サービス	一般浴・リフト浴を用意し、安全かつ快適な入浴の提供

○利用状況

開所日数	256日	
利用者延べ人数	2,147人	
	区分1(軽度)	1,479人
	区分2(中度)	416人
	区分3(重度)	234人
入浴サービス利用者延べ人数	666人	
給食サービス利用者延べ人数	1,898人	
送迎サービス利用者延べ人数	3,719人	

(14)放課後児童健全育成

○鱒ヶ崎小学校区ひまわり学童クラブ及び南流山小学校区あすなろ学童クラブの管理運営

鱒ヶ崎小学校区ひまわり学童クラブ(第1・第2・第3)と南流山小学校区あすなろ学童クラブ(第1・第2)を流山市から指定管理を受け、管理・運営を行っている。

保護者が就労等により昼間家庭保育ができない小学校就学児童を対象に、授業終了後等に適切な遊び及び生活の場を提供し、安心・安全に集団生活を送れるよう運営するとともに、保護者が安心して子育てと就労が両立できるよう支援した。

○サービスの種類・内容

項目	内容
日常保育	おやつ提供・室内及び外遊び(集団・自由)・学習 他
行事	誕生会(毎月)・季節行事・昼食会 他

○開設・利用状況(延べ)

	第1あすなろ 学童クラブ	第2あすなろ 学童クラブ	第1ひまわり 学童クラブ	第2ひまわり 学童クラブ	第3ひまわり 学童クラブ	
開設日数	250日	250日	250日	250日	250日	
開設時間	1,628時間	1,644時間	1,621時間	1,621時間	1,628時間	
児童数 (人：月延/平均)	2,490/207.5	1,971/164.3	709/59.1	534/44.5	1,590/132.5	
内 訳	1年生	794/66.2	619/51.6	279/23.3	248/20.7	434/36.2
	2年生	673/56.1	541/45.1	235/19.6	153/12.8	402/33.5
	3年生	537/44.8	481/40.1	195/16.3	133/11.1	264/22.0
	4年生	408/34.0	222/18.5			351/29.3
	5年生	78/6.5	79/6.6			139/11.6
	6年生		29/2.4			

○保育時間

平日	授業終了後 ～ 午後9時
土曜日・夏休み等	午前7時 ～ 午後9時

(15)生活困窮者等の支援

①福祉資金の貸付事業

低所得世帯等に対し、資金の貸付と必要な相談援助により、経済的自立と生活意欲の助長を図り、安定した生活が送れるよう、生活福祉資金（福祉資金・教育支援資金・不動産担保型生活資金・総合支援資金・緊急小口資金・臨時特例つなぎ資金）及び愛の資金（小口貸付資金）の貸付相談及び支援、償還指導に努めた。

特に、生活困窮者（世帯）等に対しては、平成27年4月から施行された生活困窮者自立支援事業と連携し、流山市及び流山市くらしサポートセンターユーマット（生活困窮者自立支援事業自立相談支援機関）、公共職業安定所等と連携した対応を行い、自立相談支援機関の作成する自立支援計画に基づき貸付申請につなぎ、貸付の実施後においても、自立相談支援機関とともに、当該世帯への見守り及び償還指導を行い、生活の安定が図れるように努めた。

令和2年度から続いた新型コロナウイルスの影響による収入減少等が

著しい世帯に対しての緊急小口資金と総合支援資金の特例貸付については、令和5年1月から償還が始まっているが、償還が滞りがちな世帯には、電話・メール・文書・訪問等での個別連絡や、「生活状況確認アンケート」の一斉送付による生活状況の確認を適宜行い、条件によって償還免除や償還猶予の申請手続きを支援し、当該世帯の家計への負担を軽減できるよう努めた。特に、今年度においては、引き続き返済が滞る傾向にある世帯の生活状況の把握のため、電話・文書・メールのほか、9月には訪問による現地調査を88名の借受人に対し行い、適宜当該世帯のコロナ禍後の生活改善に向けたフォローアップ支援に努めた。

また、今年度は民生委員・児童委員の一斉改選にあたり、生活福祉資金借受世帯を受け持つ民生委員・児童委員に対し、退任後の後任者への引継ぎについての文書を発出。さらに改選後、引継ぎを受けた新任委員を含む借受世帯担当民生委員・児童委員に対し、制度説明会を開催し、切れ目のない支援の継続に努めていただくよう後方支援を行った。

○生活福祉資金民生委員説明会

令和8年 1月22日 於：中央公民館	(1) 生活福祉資金の概要について (2) 民生委員・児童委員の役割と相談援助活動について 参加者52名（民生委員・児童委員）
--------------------------	---

②相談内容・件数

相談内容	件数
生活費	252件
失業・就職	11件
就学・修学費	451件
医療・介護費	2件
転宅費	25件
自己破産・倒産	0件
住宅改修	0件
冠婚葬祭費	1件
事業資金	0件
出産費	0件
障害者自動車購入	26件
福祉用具購入	0件

その他	752件
償還相談	764件
不動産担保型生活資金	99件
要保護世帯向け不動産担保型生活資金	31件
合計	2,414件

③貸付状況（貸付件数）

ア 生活福祉資金（千葉県社会福祉協議会委託事業）

資金名	申請件数 (申請額)	決定件数 (決定額)	備考
福祉資金	2件 (1,633,000円)	0件 (0円)	障害者自動車購入費(不承認)、 技能習得費(不承認)
教育支援資金	16件 (16,819,700円)	13件 (11,860,400円)	大学(7)、専門(2)、高校(7) ※減額(2)、審査中(1)、取下げ(2) 借入後入学取りやめ全額償還(1)
総合支援資金 *	0件 (0円)	0件 (0円)	
緊急小口資金 *	11件 (1,007,000円)	9件 (760,000円)	※減額(1)、不承認(1)、取下げ(1)
臨時特例つなぎ 資金*	0件 (0円)	0件 (0円)	
合計	30件 (19,459,700円)	22件 (12,620,400円)	

*印は生活困窮者自立支援事業との連携対応を要する貸付資金

資金名	申請件数 (申請額)	決定件数 (決定額)	備考
不動産担保型生活資金	1件 (5,600,000円)	0件 (0円)	取下げ

イ コロナ特例貸付債権管理業務（千葉県社会福祉協議会委託事業）

○償還猶予申請（当会による申請支援／意見書提出件数）

資金名	申請件数	決定件数
緊急小口資金	0件	0件
総合支援資金	1件	0件

○猶予後猶予・免除申請

（猶予期間終了後の状況によって申請／意見書提出件数） ※該当者なし

○その他借受人支援

・電話・メール・訪問・窓口対応による借受人との連絡・相談件数

3, 875件

・住所調査（転居先調査のための住民票請求件数）

23件

※このほか、償還方法変更届出（定期償還支援のため）、償還月額変更届出（償還金額を少額に変更し、月々の負担を軽減）、状況報告書等届出（借受人の状況を県社協へ報告）などを適宜行った。

ウ 愛の資金（本会独自事業・小口貸付資金）

件数	金額
99件	2, 153, 600円

エ 法外援護

件数	金額
2件	800円

オ 災害見舞金

区分	件数	金額
火災全焼	4件	80, 000円
火災半焼	1件	10, 000円
死亡・重傷	0件	0円
全壊	0件	0円
半壊	0件	0円
合計	5件	90, 000円

(16)施設管理

①流山福祉会館の管理運営

○開館日・利用時間

<開館日> 年末年始（12月29日～1月3日）を除く毎日

<利用時間> 午前9時～午後10時

流山福祉会館の地域性から高齢者の利用が多いことから、受付業務など利用者の利便性や特性に配慮して利用者の希望や要望に沿うよう運営

した。

また、市民が地域福祉活動等を効果的に実施することのできる拠点施設として、関係法令等を遵守して施設の管理及び運営に努めた。

○利用件数・人数

場所	利用可能 日数	午前		午後		夜間		件数 合計	利用者 合計
		件数	人数	件数	人数	件数	人数		
大広間	359	261	1,844	217	2,820	105	996	583	5,660
和室	359	261	1,755	279	1,407	13	24	553	3,186
会議室	359	430	3,374	633	4,902	86	351	1,149	8,627
音楽室	359	275	963	294	816	66	143	635	1,922
計	1,436	1,227	7,936	1,423	9,945	270	1,514	2,920	19,395

○入浴施設の開設日・利用時間

<開設日> 週4日（火・水・金・日曜日）

<利用時間> 午前10時～午後3時

入浴施設の運営では、常に浴室及び休憩室を清潔に保ち、安心・安全に利用できるよう努めたほか、利用者間でのトラブルを未然に防ぐため、利用心得等を掲示し、利用者が互いに気持ちよく利用できるよう努めた。

また、同施設利用者に季節感を味わっていただくため、「菖蒲湯」や「ゆず湯」を実施し好評を得た。

入浴者数（年間） 2,718人

○施設の機能を生かした事業等

施設利用に係る満足度調査の実施結果を踏まえ、利用者の利便向上に資するよう努めた。

また、地域の自治会等の恒例的な行事の使用については、年間予定の事前調整を行うなど地域団体等の利用に配慮した。

○自主事業

ア 「吹奏楽・合唱・キーボード・音楽療法による七夕コンサート」の開催

支援を必要とする方たちが地域で安心して暮らすことができるよう、福祉活動やコミュニティ活動の場として近隣の方々に身近な憩いの施設として親しまれてきた当館を会場に、赤い羽根共同募金チャリティイベントを実施した。

期日 令和7年6月21日（土）

内容 流山南高等学校の吹奏楽部及び合唱部、地域のピアノ教

室の先生のキーボード演奏、流山音楽療法「元気にどれみ」の講師の方による七夕コンサート
入場者 87人

イ 「吹奏楽・合唱・キーボード・音楽療法によるクリスマスコンサート」の開催

新たな年を迎える時期に、支援を必要とする方たちが地域で安心して暮らすことができるよう、福祉活動やコミュニティ活動の場として近隣の方々に身近な憩いの施設として親しまれてきた当館を会場に、歳末たすけあい募金チャリティイベントを実施した。

期日 令和7年12月20日(土)

内容 流山南高等学校の吹奏楽部及び合唱部、地域のピアノ教室の先生のキーボード演奏、流山音楽療法「元気にどれみ」の講師の方によるクリスマスコンサート

入場者 91人

ウ スマホ教室の開催

近隣にお住いの高齢者を対象にスマホ教室を開催した。

期日 毎月第1水曜日開催(計12回開催)

内容 NTT docomo 流山店スタッフを講師に初心者講座

エ 季節のお風呂

お風呂をご利用の皆様に季節感を味わっていただくものとして、菖蒲湯とゆず湯を実施した。

期日・内容 令和7年 5月 4日(日) 菖蒲湯

令和7年 12月 23日(火) ゆず湯

○車いすの貸出し

車いすを貸し出し、借りに来られる方の利便性の向上を図った。

期間 通年

貸出台数 46台(46件)

○各設備の維持管理

各設備の保守点検等は、関係法令及び各ガイドラインを遵守し、計画的に実施した。

建物の保守管理については、随時館内巡視と定期的な施設設備の点検を実施し、設備の不具合及び故障箇所の早期発見と速やかな修理・復旧に努めた。

また、年間を通じて施設敷地内の除草や花木の手入れ等を実施し、環境の整備・管理に努めた。

○修繕等

施設の老朽化に伴い、2階女子トイレ鍵交換、男性浴室戸車交換修理、第2会議室天井の剥がれ修繕、外照明3か所修繕、1階男子トイレ個室洋式便器のつまり解消修繕、風呂他水道蛇口パッキンの交換修繕を実施した。

また、施設の簡易な補修や修理等は、職員が手がけるなど経費の節減に努めた。

②流山市地域福祉センター（流山市ケアセンター）の管理運営

○開館日・利用時間

<開館日> 月曜日から金曜日（祝日・年末年始（12月29日～1月3日）は除く）

ただし、高齢者及び身体障害者デイサービスセンターについては土曜日と祝日、南部地域包括支援センターについては土曜日午前中も開設した。

<利用時間> 午前9時～午後5時

流山市地域福祉センターは、市民の地域福祉を推進するための拠点として、各種福祉団体の研修やボランティア等の養成、あるいは、福祉関係者の人材育成等の場の提供として、4階の研修室の管理を行っている。

管理にあたり、利用団体の希望に配慮しながら土曜日や夜間の貸出し等についても柔軟に対応しながら、市民の地域福祉推進と向上に努めた。

また、併設されている高齢者デイサービスセンターや身体障害者デイサービスセンターでは、利用者や家族のニーズを捉えながら、安心して利用できる施設づくりに努めた。

○利用件数・人数

場所	利用可能 日数	午前		午後		夜間		件数 合計	利用者 合計
		件数	人数	件数	人数	件数	人数		
第1研修室	245	176	2,086	166	1,961	2	29	344	4,076
第2研修室	245	150	1,782	137	1,630	2	30	289	3,442
第3研修室	245	152	1,863	130	1,398	1	10	283	3,271
第4研修室	245	131	535	110	417	0	0	241	952
第5研修室	245	134	825	177	1165	1	9	312	1,999
計	1,225	743	7,091	720	6,571	6	78	1,469	13,740

○施設の機能を生かした事業等

高齢者デイサービスセンター、身体障害者デイサービスセンター、南部地域包括支援センター、ボランティアセンター、ホームヘルパーステーション等を設置・運営し、これらの市内事業関係者の研修や会議等を実施した。

○自主事業

主な自主事業として、ボランティア養成講座の開催や車イス、点字器などの福祉機器の貸し出しを行った。

ア 施設東側法面花壇及び西側駐車場花壇の整備・植栽

職員やケアセンター近隣にお住まいの住民の協力を得て、土留めや除草等花壇を整備し、ツツジやサツキ、ラベンダーや苗等の植栽やその後の水遣り等、施設周りの美観向上及び地域住民とのコミュニケーションに努めた。

イ 福祉機器等の貸出件数

◇点字器、アイマスク、白杖、高齢者疑似体験セット、ワイヤレスマイクセット（ハンド・ピン）、ライト等（11頁参照）

◇車いす

期間	通年
貸出台数	446台（382件）

ウ 心配ごと相談所の開設（19頁参照）

エ 成年後見制度相談所の開設（21頁参照）

オ 各種ボランティア講座の開催（14～15頁参照）

カ いきいき介護教室の開催

期日 令和7年9月28日（日）

内容 身体にやさしい介護技術を学ぶ

参加者 37人

○各設備の維持管理

各施設、設備の保守点検等については、関係法令及び各種ガイドラインに則して計画的に実施し、施設利用者の利便性・安全性の確保に努めた。

また、施設敷地内の樹木の剪定及び除草等を定期的に行なった他、花壇に苗等を植栽し、景観に配慮した施設の維持管理に努めた。

○修繕等

施設の老朽化に伴い、2階身デイ室流し台自動水栓固定修繕、3階給湯室排水トラップ交換、3階男子トイレ小便器目皿交換、4階第4研修室ブラインド交換、第3研修室窓枠修繕、2階男子トイレ水流改善修繕、2階身デイ室流し台丁番交換、1階デイサービス入口壁内裝修繕、4階第5研修室の壁紙内裝修繕等を行った。

また、軽易な修繕は職員が行い、経費の節減に努めた。

(17)基金の運営

①災害対策基金

災害対策基本法に規定する災害の発生時に備えるための資金を整理・設置し、災害発生時に備えて必要な資金の迅速かつ必要に応じた対応を可能にする目的として設置し、昨今の大震災の多発、大規模自然災害の状況などを勘案し有事に備えて、寄付金や事業利益を元に資金造成及び管理を行っている。令和7年度は、資金確保のため、基金から生ずる利息の確保に努めた。

②施設管理修繕基金

本会が管理する地域福祉センターや流山福社会館、流山こまぎ園等、施設の経年劣化に伴う修繕費や施設改修費等の必要な資金を確保する目的として設置し、寄付金や事業利益を元に資金造成及び管理を行っている。令和7年度は、修繕等費用の確保のため、基金から生ずる利息の確保に努めた。

③財政調整積立基金

年度間の財源調整を行い本会の財政の健全性の確保を目的として設置し、寄付金や事業利益を基に資金造成及び管理を行っている。各事業の実施のため本基金の取り崩し及び基金から生ずる利息の確保に努めた。

令和7年度は基金は取り崩さず、前期の利益金を積み立てた。

(18)就労支援

○指定障害者福祉サービス事業所（就労継続支援B型）流山こまぎ園

障害のある人の働く場として、生産活動や社会参加活動等の機会を提供し、就労のための知識・能力向上のため必要な訓練を行った。

昨年度に引き続き 4 月から東葛の森特別支援学校高等部の卒業生が利用を開始し、当初利用者は 12 人となった。

買物かご洗浄の受託事業は、おおむね順調に推移しており、利用者工賃は平均月額も増額とし、菜園活動や昼食会を実施するなど活動内容の一層の充実に努めた。

施設外作業の菜園活動(畑作業等)は、受注先の状況及び職員体制等により作業がなく収益が減少したが、アパート清掃は例年どおり作業ができた。

さらに、社会福祉協議会が設置運営する事業所という特性を踏まえ、障害の有無にかかわらず相互に尊重し合い、共生できる地域社会づくりに向けて、八木北地区社会福祉協議会との連携・協働による共催事業の実施や収穫した野菜の販売、芋ほり交流会等を通して、地域住民の方の理解を深めるための地域交流を促進した。

このように、当事業所の効果的な運営を確保するとともに、利用者の人権や尊厳を尊重しながら、自立支援と社会参加の促進を図り、就労継続支援事業の推進に努めた。

○業務内容

項目	内容
生産活動	買物かごの洗浄作業、施設外作業(アパート清掃等)
文化教養活動	盆踊り、作品作り、流山市障害者週間展示参加等
健康指導	健康診断の実施、インフルエンザワクチン接種料の助成

○利用状況

年間開所日数	240日
利用実人員	12人
利用延べ人数	2,767人

○作業実績

買物かご洗浄作業	総数	1,035,948個
	1日当たり平均洗浄個数	4,316個
アパート共有清掃	回数	13回

○各設備の維持管理

各設備の保守点検等は、関係法令及び各ガイドラインを遵守し、計画的に実施した。

また、年間を通じて施設敷地内の除草や花木の手入れ等を実施し、
植木剪定等環境整備に努めた。

○作業環境の改善修繕等

高圧気中開閉器（PAS）交換及び高圧ケーブル交換更新工事、高圧受電設備（キュービクル）及び屋外灯塗装修繕、作業室照明器具増設、洗面所排水溝修理、避難口誘導灯交換などの修理等を実施した。

○感染症対策等

ガイドラインに沿った感染症予防対策を実施した。

2 公益事業

(1) 介護保険

① 居宅介護支援

要支援者及び要介護者が適切な保健、医療サービス及び福祉サービスを総合的かつ効率的に受けられるよう配慮し、関係市町村、地域の保健・医療サービス及び福祉サービス事業者等と連携を図りつつ、総合的なケアマネジメントに努めた。

○ 居宅介護支援延べ実施件数

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
862件	717件	409件	225件	124件	2,337件

○ 介護予防居宅介護支援実施延べ件数

要支援1	要支援2	総合事業	合計
113※件	108件	81件	302件

関連で輪島市の方1名（支援1）を11月より支援。上記件数に含む。

② 介護認定訪問調査受託事業

流山市から介護認定訪問調査業務を受託し、介護保険法に基づく要介護認定申請者に対して、関係法令を遵守し、公正中立な立場で介護認定調査を実施した。

年間実施件数 2,088件

③ 流山市南部地域包括支援センター受託運営事業

ア 総合相談支援業務

担当地域に住む高齢者に関する様々な相談をすべて受け止め、適切な機関・制度・サービスにつなぎ、継続的にフォローするとともに、必要に応じて継続支援している。多種多様なケース対応のため、日頃より関係機関との連携を密にしている。

○ 相談形態別延べ件数

電話	3,233件
来所	703件
訪問	1,025件
その他（メール・FAX等）	58件
合計	5,019件

○相談内容別延べ件数

介護・日常生活	4, 476件
認知症	1, 166件
サービス利用	2, 941件
介護予防	29件
医療	1, 262件
経済問題	111件
苦情相談	34件
虐待防止・対応	147件
成年後見制度等	125件
消費者被害防止・対応	2件
DV防止・対応	1件
その他	6件
安否確認に関する相談	24件
合計	10, 324件

○処遇困難実件数

8050問題	4件
ダブルケア	4件
ヤングケアラー	0件
介護離職	0件
貧困世帯	1件
独居認知症	33件
認認世帯	2件
若年性認知症	1件
家族が精神疾患	7件

○コミュニティケア会議

「気軽に声をかけあえる関係づくり」を実施。

参加者が積極的に会議を作れる基盤が構築された。

回数	期日	場所	出席者数
南部地域北部地区会議	令和7年 8月 4日	ケアセンター	39人
流山小学校区会議	8月18日		38人
鱒ヶ崎小学校区会議	8月22日		23人
南流山小学校区会議	8月25日		53人

イ 権利擁護業務

消費生活センターや相談の聞き取り等で得た各種情報の周知活動を地域の集いの場で実施した。

高齢者虐待への取り組みとして、介護保険事業所に高齢者虐待（権利擁護）について研修を実施した。

○高齢者の権利擁護

内容	件数
成年後見制度相談	41件（うち申立て7件）（うち市長申立て4件）
虐待通報	受理16件（うち虐待ありと判断11件）

○認知症高齢者支援

内容	開催回数	参加者延べ人数
介護者のつどい	6回	84人
認知症サポーター養成講座	5回	440人
<内訳>		
広く地域住民（ケアセンターにて）	1回	10人
イトーヨーカ堂流山スタッフ	1回	10人
鱒ヶ崎小学校4年生	1回	110人
南流山第2小学校4年生	1回	135人
南流山小学校4年生	1回	175人

認知症サポーター養成講座では、キャラバンメイト（講師）のボランティア2名と協働で実施した。

ウ 介護予防ケアマネジメント業務

介護保険の基本理念に基づき「自立支援」を目的とし、生活上のさまざまな課題を抱える高齢者に対して適切な支援を行うことにより、要支援・要介護の予防やその重症化の予防、改善を図り、早い段階から高齢者ができる限り自立した生活を送れるように支援した。

○介護保険認定者区分別者延べ人数

	更新	新規	区分変更	合計
要支援	165人	221人	13人	399人
非該当	3人	2人	0人	5人
合計	168人	223人	13人	404人

○介護予防・ケアマネジメント実施延べ件数

包括	2,330件
委託	1,031件
合計	3,361件

エ 介護予防の普及・啓発

○一般介護予防事業

南流山センターと協働で私の居場所作りを実施

- ・南流山センター祭りにて、火木会の方によるバザー（赤い羽根募金及びセツお婆さんの小物販売を行った。
- ・ブルーローズ・スプリングコンサート（絵画等展示会 含む）を開催した。
- ・鰯ヶ崎小学校にて、セツお婆さんが手芸部の児童へふくろう作りを指導。
- ・川柳かるたの絵や色塗りを、保育園、幼稚園、小学校、ふれあいの家、地域住民等に依頼をして書いてもらっている。

○その他

- ・ブルーローズ・スプリングコンサートにて、流山南高等学校ボランティアの学生向けに、福祉の仕事（ヘルパー、ケアマネジャー、福祉用具専門員、地域包括支援センター等）を紹介した。
- ・流山南高等学校1年生対象に、専門職による介護技術、福祉用具、認知症等の授業を実施した

オ 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

主な業務	件数等	内 容
介護支援専門員への個別支援	332件	虐待、成年後見、日常生活自立支援制度、認知症、精神障害等の家族支援
南部地域ケアマネ交流会	3回 89人	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活自立支援制度 ・成年後見制度について ・自立支援型地域ケア会議 ・民生委員との連携（生活保護制度含む）
地域個別ケア会議	2回	<ul style="list-style-type: none"> ・キーパーソン不在、 ・独居認知症、飲酒、喫煙等トラブル ・認知症→精神疾患の息子と二人暮らし キーパーソン不在
自立支援型地域ケア	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅酸素利用者 ひとりで買物に行きたい意向をどう支援するか

カ その他

- 流山南高等学校の吹奏楽部・合唱部・司会（ボランティア）、地域のピアノ講師の方、音楽療法の方にご協力いただいてチャリティーコンサートを実施した。（流山福祉会館と共催）
- 流山南高等学校の学生に、スプリングコンサートにおけるデイサービスの利用者の車いすの誘導や、見守りボランティアに従事していただいた。

3 収益事業

(1) 自動販売機設置

自己財源を確保するため、売上金の一部が本会の福祉活動の財源に活用され住民に還元することができる社会貢献型自動販売機の設置に取り組んでいる。

市内の公共施設等にご協力をいただき、令和8年3月末現在で17か所、19台の社会貢献型自動販売機を置かせていただいている。（コミュニティプラザとキッコーマンアリーナ、地域福祉センターについては、災害発生時には本体に残っている飲料が無償で提供される災害ベンダー機能付き。）

○ 自動販売機設置状況

場所	災害ベンダー機能	台数
江戸川台福祉会館		1台
思井福祉会館		1台
西深井福祉会館		1台
東深井福祉会館		1台
平和台福祉会館		1台
南流山福祉会館		1台
向小金福祉会館		1台
名都借福祉会館		1台
キッコーマンアリーナ	○	2台
コミュニティプラザ	○	1台
北部公民館		1台
森の図書館		1台
クリーンセンター	リサイクル館	1台
	プラザ館	1台
	ごみ焼却施設	1台
地域福祉センター（ケアセンター）	○（4階）	2台
流山こまぎ園		1台
合計		19台